第２回のセミナーを５月２７日(土)　13:30～15:30 に開催しました。

会　場：愛知文教大学　２０１教室

テーマ　全員が主体的に学びに向かう学校づくり・授業づくり

講　師　　学び合う学び研究所フェロー　倉知　雪春先生

実践発表者　みよし市立三好丘中学校　　佐々　祐資先生

今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、聴き合いの基礎を作る Think&Talk です。 学び合いをやる上で大切なことを再確認できました。授業だけで作るものではなく、掲示物や継続したコミュニケーショントレーニングを含めて作っていくことを知りました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、生徒に何ができるようになったか、あるいは感じたことを振り返らせ、次の授業へとつなげていくことが生徒のみならず教員にとっても大切であると感じました。 生徒自身が、何ができるようになり、何が課題なのかに自ら「気づく」ことで、次への学びへと繋ぐことができることに改めて感じました。 生徒自身の内面と「対話」するためにも、意見交流をあらゆる場で取り入れ、考えを整理させることが有効ですね。「目的と手段(方法)と目標を考えた上で授業をすることが大切だ」と初任者研修の時に教わったことを思い出しました。今日のセミナーで、「どんな場面で何をねらうか(できるようになるのか)」がまさしく、初任者研修の時の内容だったのかと結びつきました。 英語教員として、道標のことについて当てはめるのであれば、目標を示すという側面において、can-do リストの作成及び提示や必要に応じて振り返りをすることなどが挙げられると感じます。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、学校作り３つの柱①ケアリング　②学びづくり　③校内研修です。 三好丘中学校の先生方が、学び合いを真摯に受け止めて研究されてきた様子が伝わってきました。校長先生はじめ多くの先生方がこの会に参加してくださっており、その姿勢にも生徒の学びを保障しようと熱心に取り組まれていることが表れているように感じ、懐かしさと羨ましさを感じました。三好丘中学校が大切にされてきた「自覚」と「探究」という二つの言葉には、多くの意味が含まれていると考えますが、とりわけ「自覚」という言葉に惹かれました。振り返りもそうですが、学びの最初もこの「自覚」から始まるということを改めて認識しました。自覚の一歩は「わからなさ」だと思います。誰一人残らず学びを保障するにはこの「わからなさ」を先生も生徒も心から大切にしていくことだと、今日の生徒たちを見て気付きました。そうすれば、より一層、学びを自覚でき、その中に生徒自身の問いが生まれ、それが探究につながるのだなと。素敵な生徒たちを見せてくださりありがとうございました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、コミュニケーショントレーニングです。 １　理科授業 苦手意識の多い物理の授業において、ベクトルの加法を書きながら、話し合いに参加している姿に驚きました。解決すべき問題が自分のものとなり、課題解決の道筋が見えている生徒の姿です。これは、実際に、バケツにひもをつけて、ひっぱるという体験があるからできる学習だと思います。体験する、体感することで、生徒の問題意識が育つのだと思います。物理の楽

しさを感じる授業でした。

２　コミュニケーショントレーニング

私の教員時代、話し合いの話型を教室に掲示するということはありました。しかし、いつのまにか飾り物になっていました。本日の発表のように、トークスキルを掲示し、また、それを活用するコミュニケーションスキルの時間を設けたことにより、生き生きと話すことができる生徒が育っていくと思います。笑顔で男女が最近良かったことを話す姿には、励まされました。このように他人を信頼するという経験を積み重ねていくことが、平和な世界につながると思います。

３　学び合う学びについての気づき

学び合う学びの基盤は、コミュニケーションだと思います。そのコミュニケーションの力を育てていくことの具体的な方法を教えていただきました。聞く作法を指導することが大事であると気付かされました。うなずきながら、質問を加えながら話す生徒の姿は、素晴らしかったです。コミュニケーション力を育てると言って、漠然と言っていましたが、こうやって一つ一つステップを踏んでいくことが必要です。

今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、大切なことは子どもが教えてくれるということです。

倉知雪春先生、三好丘中学校の先生方ありがとうございました。「学校づくりの７つの方略」を素直に実践し、学び合う学びにホンモノを求め、子どもの社会的自立に向け、協同して本気で挑戦している先生方からたくさん学びました。

セミナー前に資料を手に取り、きっととっても幸せそうな子どもたちだろうと想像していました。実際にビデオをみて、ケアリング、子どもの表情やしぐさ、距離感・つながり、教室の雰囲気・空気、対話的意識、やわらかさ、やさしさ、温かさが想像以上でした。

これまでの経緯、子どもの状況、子どもの文脈から学びを生むしかけや挑戦を先生方が熱く伝えてくださり、深く納得して聴いていました。ありがとうございました。休憩時間中も、グループの皆さんと事実からたのしく学び合いました。

グループでは特にロープウェイのジャンプ課題が話題になりました。学び合う中で「年に数回はとっておきの授業をしたいね」と倉知雪春先生が２０年ほど前にお話になったことが浮かんできました。

日常の授業では毎時間ジャンプの「ごちそう課題」を創ることができません。倉知雪春先生は日常の国語授業もいつもたのしく、子どもから大人気でした。やり方ではない、ネタではない、策におぼれない、日常の授業におけるジャンプ課題について、グループの皆さんのお話を聴き、深く考えるきっかけとなっています。

また、授業研究会・公開研究会・授業研究そのものの位置づけについても、各校のビジョン・経緯・事実・戦略や構想で大きなちがいがあります。素直・謙虚・誠実・正直・感謝が一番、先生方の声を素直に聴き、協同的に学び、反省的実践家として最後は直感を信じて「まずやりたいようにやってみる」がいいなあと、このセミナーで再認識しました。

最後に校長先生が「いつでもお越しください」とお話されました。すてきな学校でいつの日かリアルに学ぶ機会ができるといいなあと思いました。これからもどうぞよろしくお願いしま

す。ありがとうございました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、子どもたちの学びを支える環境づくりです。 三好丘中学校の実践報告から子どもたちの学びを支える環境づくりの大切さについて学びました。質の高い学びを実現するためにはジャンプの課題の設定はもちろん大切であるが、同時に子どもたちの関係性と学びの作法の定着が土台として必要である。日々の Think＆Talk や活用したいトークスキル、そして柱に沿った掲示物など多くの示唆をいただきました。いずれの取り組みも生徒一人一人を大切にしている三好丘中学校の先生方の情熱を感じました。月曜日から自分の生徒の振り返りにおいてロイロノートを活用して共有しょうと思います。また、倉知雪春先生からは、学校づくりの７つの方略を教えていただきました。その中でも最初の授業研究は早い時期に行うこと、夏休みの研修で４月から取り組みを振り返り疑問や課題を出し合い、共有することに惹かれました。勤務校でも少しずつ取り入れていけるよう働きかけていこうと思いました。セミナーに参加すると本当に勇気と元気をもらえます。多くの学びをありがとうございました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、研究は全員でやる！です。 三好ヶ丘中学校の研究を見て、その後の倉知先生のお話から、少しずつ研究についてみえてきたように思います。全員で同じ方向を向いて、納得してやっていけるようにしていきたいです。 つい、焦ってしまい、早くテーマをと考えてしまうのですが、まずは生徒の、そして教師の困り感によりそいながら、今本校に必要なことを、ずっとやっていけることをやっていきたいです。ありがとうございました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、学校づくりの７つの方略です。 授業実践に関しては、いろいろな取り組みがされており参考になる部分があった。工夫して学校を変革しようとしているところは、子どもたちの表情も良い。 学校づくりの７つの方略に関しては、毎年確認すべき内容がわかりやすくまとめられていると感じた。年月が経つと忘れがちな内容だけに、とても貴重な話を聞くことができた。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、「教える」という授業観からの脱却を求められているということです。 初めて参加させていただきました。みよしの先生方の発表は、自分の勤務校で実践している SST と共通する部分もあり、参考になりました。理科の授業動画からは、生徒たちが協働的に解決しようとする姿がよく伝わってきて、課題設定の大事さを改めて感じました。倉知先生のお話からは、学校全体で授業改善を進めていくことの大事さを改めて実感しました。
今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、学校のスタンダードを定め、それをよりどころに教育活動を行っていくことです。 「自覚」を確認することをスタートにしている点が参考になった。 理科の実験では、グループの中の一部のメンバーしか操作できない場面が多いが、紹介例のようなものでは、ひもの角度による重さの違いを全員に体感させたい。 授業記録でグループ活動をビデオに撮る場合、周辺のグループの声が雑音になってしまい、

焦点としているグループの発言がよく聞き取れない。タブレットやビデオカメラの内蔵マイクでなく、指向性の高いマイクを接続することである程度解決すると思うが、グループ活動でない場面では、無指向性マイクで教室のどこに座っている生徒の発言でも拾えるように録りたいので難しいところである。